

平成23(2011)年4月2日第85号

# 学校だより

## 新入園・新入学 おめでとうございます

新緑が目鮮やかな今日、新入園児40名、小学部新入学児37名、中学部新入生25名、高等部新入12名、計114名の園児、児童生徒を迎えました。

心からご入園、ご入学のお祝いを申し上げます。

全校の園児、児童生徒総数は367名となり、一人一人が本校で学び、将来における自己実現への道を遅く歩んでいただきたいと願っています。

### 【学校規模等】

学級数は小学部3年生は3学級、他の幼稚園部から中学部1年生までの各学年は2学級編成、中学部2年、3年生、高等部1年、高等部2・3年生を各1学級編成とし、総学級は21学級となり、前年度より1学級増となり、園児、児童生徒数で18名増(昨年4月比)です。また、今年度は高等部対象のSATを2時間にしました。教職員数は、学校長1名、教員21名、事務員2名です。

### 【教育目標等】

#### 「教育目標」

日本語のできる子どもに国語力、数学の基礎・基的知識を身につけさせ、より一層国際的感性を高める

#### 「重点事項」

自ら学び、自ら考える教育実践を基調とし、学びの習得や課題解決などの能力の育成を重視する。

そのためには、子どもや学校、地域社会の実態をふまえた特色ある教育課程を編成し、基礎・基本の確実な定着を図り、指導方法の工夫・改善・開発に努め、分かり易く魅力ある授業を行うことができる指導力・授業力向上に努める。

また、子どもとの温かなふれあいを通じて日常的に相談しやすい雰囲気をつくるとともに、保護者との関係を大切に、子どもが発する心のサインや行動を見逃さず、早期発見、早期対応に努めることによって、篤い信頼関係を樹立する。以下、教育経営の方針・方向については、次号に続きます。

次週4月9日はジャパンプェスティバルのため、午前授業となり、授業の終了は12時25分です。お迎えは12時30分となります。よろしくお願致します。

## ヒューストン日本語補習校

Japanese Educational Institute of Houston

12651 Briar Forest Drive, Suite 105, Houston, Texas 77077  
Tel. 281-531-6743 / Fax. 281-531-6795 (事務局 火~金曜日)  
Tel. / Fax. 713-973-0659 (職員室 土曜日のみ)

E-mail: jlssh@jeihouston.org Home Page: www.jeihouston.org

### 平成23年度 学級担任等

本年度の学級担任等を下記のように任命しました。新しい級友との出会いが、また、新しい担任との出会いによって、清々しい歴史を築いていくこととなります。心身共に健康で学業に励むことを期待致します。

学校長 中島 満 (政府派遣)

#### 〈幼稚園部〉

星組 山田真由美 宙組 若槻さおり

#### 〈小学部〉

1年A組 リッテンマイヤー美智子 B組 名生有公子  
2年A組 熊谷芳江 B組 辻村淑美  
3年A組 安田清江 B組 大津早也佳  
C組 縄手千栄  
4年A組 山鹿恵里 B組 樽谷明日香  
5年A組 岡崎尚子 B組 和田祥子  
6年A組 小松倫子 B組 カルデロン智子

#### 〈中学部〉

1年A組 土本さゆり B組 佐藤暁子  
2年A組 宗吉康子 3年A組 恩田晶子  
中学理科(科学領域)担当 清水 亮

#### 〈高等部〉

国語担当 河島通子 数学担当 嶋田光昭  
中3数学、高等部SAT担当 清水 亮

#### 〈事務部〉

高田益美 岩佐よし

## 古川聡宇宙飛行士壮行激励会



3月19日、卒園・卒業式、修了式などの挙行後、5月末、宇宙へ旅立ちをされる古川聡宇宙飛行士の激励壮行会が卒業式会場で開催されました。

小学部2年生の有賀桃花さんが花束を贈呈し、高等部の三輪岳誠君が激励の言葉を申し上げました。

古川聡宇宙飛行士さんからは、今回のミッションについてお話をさせていただきました。

補習校園児、児童生徒、教職員・保護者一同、ミッションの成功をご祈念申し上げます。

## 平成23年度の主な行事計画

- 4月 2日 始業式・入園・入学式、記念写真  
 9日 午前授業 ～10日ジャパンフェスティバル  
 16日 避難訓練  
 30日 学習参観・学級懇談会(幼、小1)
- 5月 7日 No.1 PTA クラス委員会。総会  
 14日 学習参観・学級懇談会(小2.4、高等部)  
 21日 学習参観・学級懇談会(小3.5.6 中学部)  
 中間考査  
 28日 No.2 PTA クラス委員会、中間考査  
 歯の指導(幼、小1、2年)  
 小6年「室町文化体験・茶道教室」
- 6月 4日 星出彰彦宇宙飛行士講演会 No.1 漢検  
 11日 研究授業発表会(北米南部地区等対象)  
 25日 夏休み前の最終授業日
- 7月 2日～7月30日 夏休み
- 8月 6日 夏休み明け最初の授業日  
 27日 個人面談予備日
- 9月 3日 10日 17日 個人面談 期末考査  
 4日 対ダラスソフトボール大会  
 10日 No.3 PTA クラス委員会 期末考査  
 24日 前期終業式・後期始業式
- 10月 1日 運動会予行 同打合会(保護者・教員)  
 15日 運動会  
 22日 運動会予備日  
 29日 No.4 PTA クラス委員会
- 11月 5日 小3年生社会見学 No.2 漢検  
 12日 中1年生ヒューストン美術館見学  
 19日 幼稚園親子遠足
- 12月 3日 次年度入園・入学説明会 中間考査  
 10日 中間考査  
 17日 幼、小1、2年生音楽会
- 12月24日 31日 冬休み
- 1月 7日 No.5 PTA クラス委員会  
 14日 もちつき大会、硬筆展・年賀状展  
 28日 学習参観(小1.3.5年、高等部)  
 高等部入学説明会(放課後)
- 2月 4日 新幼・新入学小1年面談 No.3 漢検  
 11日 学習参観(幼、小2.4.6年、中1.2高)  
 中学部入学説明会(放課後)  
 18日 No.6 PTA クラス委員会 期末考査  
 25日 高等部学力テスト・面接 期末考査
- 3月 3日 卒園卒業式予行  
 17日 第40回卒園・卒業証書授与式  
 修了式、離任式等

平成23年度の授業日は42日間です。諸行事が色々と計画されています。ご家庭の年間予定表作成の参考にしてください。今年もご協力の程よろしくお願い致します。

## 卒園・卒業式 厳粛に挙行されました

3月19日(土)、在ヒューストン日本国総領事職務代理渡部隆彦様、ヒューストン日本商工会長秋葉慎一郎様ご夫妻、本校運営委員会委員長川瀬裕司様ご夫妻及び多数ご来賓各位、卒園卒業生の保護者各位のご



臨席の下、厳粛に卒園・卒業証書授与式が挙行されました。尚、この儀式に先立ち、東北関東大震災で亡くなられた方、被災された方々に対して哀悼の意を表し、全員で黙

(卒園児に話しかける渡部代理) 祷を致しました。

儀式は、証書の授与、学校長式辞、渡部隆彦総領事代理祝辞、秋葉慎一郎会長と川瀬裕司委員長から記念品授与と続きました。その後、在校生からの送辞、卒業生答辞となり、授与式は終了しました。

式辞、送辞・答辞を別ページに掲載致しました。

引き続き、修了式が行われました。高等部卒業の生徒には修了証が授与されました。

最後に、2年間にわたって中学部理科を担当して下さった笠井五郎先生の離任式が行われました。笠井先生には厚く感謝する次第です。ありがとうございました。また、小3B担任の亥本房子先生は出産育児のため1年間の育児休業となりました。1年後の復帰を楽しみにしています。

## ◆パトロール当番予定表4月9日◆

～本年度もよろしくお願い致します。～

学年	順位	児童生徒氏名
★AM1 リーダー旧中3	1	畑中義信
	2	全 伽蓮
	3	宇野慎太郎
	4	矢ヶ崎朋樹
	5	坂上 英
	6	10 稲尾健太郎
	7	11 宮崎里菜

4月9日はジャパンフェスティバルのため、午前中4時限までの授業となり、午後のパトロール当番はありません。

**転入** 歓迎します。補習校生活での活躍を期待します。  
 小2A一ノ瀬菜々 小2B富岡星来、岡本みなみ  
 小3A森勇一朗 小3B寺田怜矢 小5A岡本葵  
 小6A渡部雄飛、一ノ瀬さくら 小6B寺田凌大  
 高2出崎毅哉 (転入生の内、新入園児、小中高の新入生は、記載していない。)

**転出** 小5A高倉堇(3月19日付)

ヒューストンでの思い出をいっぱい持って、転出先でも元気で活躍してください。



本日、第39回卒園卒業証書授与式を挙げるに当たり、在ヒューストン日本国総領事職務代理渡部隆彦様、ヒューストン日本商工会会長秋葉慎一郎様を始め商工会役員の皆様、本校運営委員会委員長川瀬裕司

様及び運営委員の皆様のご臨席を賜りました。そして、この晴れの日を心待ちにされていた卒園卒業生の保護者の皆様のご出席をいただきました。心から御礼申し上げる次第であります。

このような、夢と希望に満ちた卒園、卒業証書授与式が挙行される本校とは別に、日本にありましては、東北関東大震災の犠牲者、行方不明者、連絡が取れない方々が1万6千人以上に上ると報道されています。皆様の親族、友人・知人もその犠牲になられた方がいらっしゃるのでしょうか。

人類の叡智を集大成しましても、この大地震の前には、真に無力でありました。未曾有の災害に遭遇された方々にその思いを馳せるとき、筆舌に表すことのできない悲しみを持たざるを得ないのであります。深く哀悼の意を表する次第であります。

さて、今ほど、卒園・卒業生84名の一人一人に対し、これまでの学業生活での奮闘を讃えと共に、今後の努力を祈りつつ証書を手渡した次第であります。

**幼稚部の星組の皆さん。宙組の皆さん。卒園おめでとうございます。**

**保護者の皆様。お子様のご卒園おめでとうございます。心よりお祝いの言葉を申し上げます。**

この1年間、本を読んだり、本の読みきかせを聞いたり、ひらがなを書いたり、音楽リズムをしたり、縄跳びや体操をしてきました。また、たくさんの友だち・仲間も出来ました。

1年間しっかりと生活を続けました。「よくがんばりました」とほめてあげます。

**小学部卒業生の皆さん。卒業おめでとうございます。**

**保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。**

皆さんの頭の中には、6年間の思い出が頭をよぎっていることと思います。6年間の学校生活の中で、大切にしてきたものは、ともに学び、ともに生活をする仲間と励ましあい、助け合うことでありました。人間は一人では生きて行くことが出来ないことは皆さんも知っての通りです。大切にしてほしいことは、いろいろな人々との出会いと仲間との生活によって今日までやってこれたということをお忘れしないことです。

もう一つ大切にしてほしいことがあります。それは「未来」と言う言葉です。「未来」とは「未だ来ていない時」という意味ですが、英語では「FUTURE」と言い「将来をつくる」という意味があります。皆さんが生きる21世紀の世界を「FUTURE」の言葉通り、皆さん自身の手で作り上げてほしいのです。

今から130年前、東京に生まれ、彫刻家であり、詩人でもあった高村光太郎は、いつも自分に誠実で勤勉で「自分の心にうそをつきたくない」との思いを大切に、理想を追い求め「よく生きたい」と願って活動してきました。高村 光太郎の今まで歩んできた道とこれから歩んで行こうとする道への祈りと気高い気持ちを込めた作品を皆さんに送りたいと思います。

それは高村光太郎の「道程」という詩です。

**道程**

僕の前に道はない。

僕の後ろに道は出来る。

ああ 自然よ 父よ。

僕を一人立ちにさせてくれた広大な父よ。

僕から目を離さないで守ることをせよ。

常に父の気迫を僕に充たせよ。

この遠い道程のために。

この遠い道程のために。

**中学部卒業生の皆さん。卒業おめでとうございます。**

君たちはまことに多くの方々に支えられて、今日の日を迎えたのであります。この後、諸君の多くは本校高等部など上級学校に進学するのでありますが、当分は、保護者や家族に支えられての生活が続くのであります。しかし、諸君が生きて働く二十一世紀の社会は、自らの責任をきちんと果たしつつも互いに支え合う思いやりの社会が来るのであります。

かつては、情報化社会、高齢化社会、少子化社会などと「化」の字がつけられ、変化の途中を表していましたが、今は、この化の字がついていないのであります。つまり完全に情報社会であり、高齢社会であり、少子社会であります。

このような社会で職業生活を行ない、自己実現を目指して行くには

**次の四つの能力を自ら自身の努力で獲得することが必要であります。**

**一点目は、キャリア設計能力であります。**これは、自分の将来生活について現実の自分自身に立脚して設計・計画することが可能な能力をいいます。

**二点目は、キャリア情報探索・活用能力であります。**これは、自分の職業生活に必要な情報を探し活用し自分

と仕事や社会との関係づけを通して、自分と社会について理解を深めることが可能な能力を言います。

三点目は、**意志決定能力**であります。進路選択で遭遇する様々な葛藤に直面し複数の選択肢を考え、選択時に納得できる最前の決定をし、その結果に対応できる能力を言います。

最後の四点目は、**人間関係調整能力**であります。これは自己と他者の両方の存在に関心を持ち、様々な人々との関係を築きながら自己を生かしていける能力を言います。

つまり、人間関係を創り、調整し修復することができる能力であります。これら四つの能力はいくつになっても育て、発達させなければならない能力であります。

次に新たなるステージに巣立ちゆく卒業生諸君に**三つの期待**について申し上げます。

**一番目の期待**は、健康な肉体と健全な精神を増幅させ維持し、さらに、自らの個性を発展し続けていただきたいと言うことであります。健康な肉体と健全な精神の創造は、自分自身のみならず他者との関係において、掛け替えの無い生命と基本的人権の尊重の精神につながるものであります。また、個性の発展とは、自らの長所を伸ばすことを意味するのでありますが、その基礎基本は確実な努力によって修得した学力乃至はその学習内容にあります。絶えず向学心を厚くして未来に臨まれん事を期待致します。

**二番目の期待**は「豊かな感性をもて」と言うことであります。感性とは、外界の刺激や印象を受け入れる能力を示し、感受性とも言われるものであります。四季折々の移り変わりを感じたり、花壇や野に咲く花ばなを見て「きれい」だと感じたり心安らかにすることができる心であります。また、困っている人や悲しんでいる人に対して、共感しつつ温かく相談にのり、さらには、友の喜びを自分の喜びとして感じとることができる力であります。悪に対しては敢然と立ち向かう正義心も磨かれるよう期待します。

**三番目の期待**は、一人一人が将来において自己実現するという事であります。自己実現とは、自分自身の能力、適性、興味、関心をよく理解し、将来においてこう在ればよいとか、こういう仕事をしたい、と言う希望をもって努力する、つまり、自己啓発を続け、自分自身の希望を達成することを意味します。自己を実現した姿は百人百様であり、十人十色であります。進路選択にありましても、誰が何処の学校を出たかではなく、その一人一人が何を学び、何が出来るのかが問われる社会が、君たちの進路選択先になるのであります。ときあたかも、「創造の時代」と言われています。柔軟な発想で、意欲的に粘り強く物事に取り組んでいかれんことを期待するものであります。皆さんの生き方なり方が二十一世紀の日本をそして世界を創造する事になるのであります。将に前途揚々たる皆さんの未来であります。

以上、一番めから三番目までの期待を達成する為に必要な共通している能力として、先ほどの四つの能力形成が求められるのであります。

すぐに「キレタリ」「ムカツク」行いは、まさに、この四つ目の人間関係調整能力の欠如した姿であります。人は人の中にあって成長するのであります。善なるもの、正義なるもの、社会の福祉に寄与なるものを互いに高め合い、深め合う人間関係を目指して生きていただきたい。

この卒業を契機として、将に本校を巣立ち帰国される人、また、現地校での学習に専念する人、更には、現地校と補習校の両立を目指して精励する人等々、それぞれの進路選択は多様ですが、どうぞ、本校で蓄えた能力を最大限に生かし、自らを成長・発展させる努力を継続していただきたい。

**保護者の皆様**に一言申し上げます。人間の精神発達段階からしますと、小学部卒業は思春期前期への入学を、中学部卒業は思春期後期への入学を意味します。人生の先輩として、人としての在り方生き方を大いに語りあげていただきたいと切望する次第であります。人生観を持つと言う事は、物事に対する価値観を持つと言う事であり、清く、正しく、美しく生きる日々の中にあります。

また、保護者の皆様にありましてはヒューストン日本語補習校の園児、児童・生徒のために、大変大きなお力添いを賜りました。

お陰様で本日の日を迎えることが出来たのであります。感謝を申し上げますと共に心からお子様の卒園・卒業に対しご祝詞を申し上げます。

最後になりましたが、卒園・卒業生84名の門出に際し、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様方に、心からの謝意を表すると共に卒業生の前途を祝し、式辞と致します。☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

#### 卒園・卒業証書授与の様子



卒園・卒業生の前途を祝し、益々の学業成就を祈念します。健康保持に留意し、自らの将来を逞しく開拓されんことを切望します。

## 送 辞

在校生代表 中学部二年 A 組 川西 諒一

ヒューストンにも、桜などの花が咲き、今日の佳(よ)き日をお祝いしているように思います。

卒園生、卒業生の皆さん、並びに保護者の皆様、本日は御卒業、誠にありがとうございます。



卒園生の皆さんはこの一年間でたくさんのお友達ができましたか。入園してから一年間楽しいことがたくさんありましたね。

運動会や遠足、お餅つき等、日本の行事は楽しかったですか。

小学部の卒業生の皆さんの中には、転入して来た人も多い事と思います。現地校での慣れない環境と、英語の習得と、補習校の宿題の両立は大変だったと思います。

国語で学んだ多くの漢字や、進んだ算数の学習や、社会で学んだ日本の歴史等、振り返れば、たくさんのお事を一週間に一度の補習校で学びました。これは、皆さんの6年間の努力と、ご両親の送迎と、並々ならぬ補習校の先生方の熱意ある御指導のお陰である事を、忘れてはいけません。

中学部の卒業生の皆さんは、更に忙しくなった現地校の宿題と、補習校の宿題に、金曜の夜も遅くまで励み、睡眠時間を削りながらも、課題に取り組みされた方も、多くおられる事でしょう。

中間テスト、期末テストの勉強や、漢字検定にチャレンジし、国語、数学、理科、社会の4教科を学習し、この3年間に習得した事は、大きな自信につながっていく事でしょう。

日本より、遠く離れたこのヒューストンで、日本語での学習が出来、そして、運動会や餅つき大会、放課後に行われるソフトボールの活動ができたのは、多くの方々のお陰です。そして、一緒に学び、笑い、時に悩みを分かち合った友人は、心の大きな支えだったことと思います。



この3月で、この地を離れる方もおられると聞いていますが、ヒューストン日本語補習校で過ごした時は、きっと、色あせる事は無いでしょう。

この先に、いかなる困難があっても、このヒュース

トン日本語補習校で、学んだ知識を生かし、努力を思い出し、ここで知り会えた友人を大切に、明るい未来に向かわれる事を、心より願っています。

## 答 辞

中学部卒業生代表 宇野 慎太郎

ヒューストンには珍しい寒い冬が過ぎ、吹く風のやさしさにヒューストンらしい春の訪れを感じるようになりました。



私たちは、三年という中学生生活で、いろいろなことを学び、たくさんのかげがない仲間に出会いました。今日という卒業の日を迎えることができ、感謝の気持ちで一杯です。私たちを今まで支えてくださったかたがたに心からお礼を申し上げます。

私たちは日本のそして世界の各地から、いろいろな背景を持ってこの補習校に来ました。日本の学校に通ったことのない人もいます。ここに来るまでは日本の学校にずっと通っていた人もいます。そんな仲間が日本語のため、日本の勉強のため、週一度この補習校に通い勉強しました。得意な科目を見つけた仲間もいます。

三年間で一番大変だったのは、やはり現地校との両立でした。早ければ中学二年生の九月、中学三年生の九月には皆がハイスクールに通うようになりました。ハイスクールでは勉強だけでなく、いろいろな活動が活発になります。毎日夕方六時までバンドの練習、金曜日のフットボールの試合、帰宅してからは勉強と宿題をしなくてはなりません。どうしても日曜日にできなかった補習校の宿題は、金曜日の夜からとりかかり、日付が変わってから眠りにつくこともしばしばでした。そんな日々が続いても、週一度、補習校で日本人の友達と時間を過ごす、不思議と元気が出てきました。今日ここに、一緒に卒業する皆も苦労しながら、励ましあい、助け合ってそれを乗り越えてきた仲間です。まさに、この補習校で過ごした日々は、かけがえのない思い出の日々となりました。ここで過ごしたその仲間たちとの時間は私たちに一生の宝となるでしょう。

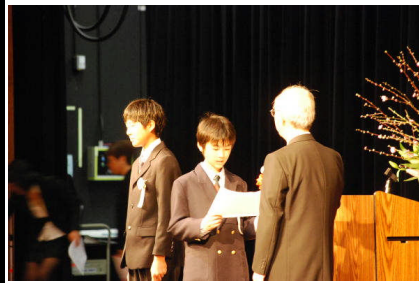
私たちは今日、中学部を卒業します。これからは、自分たちの意思で勉強を続け、夢や希望の実現のために日々努力していきます。未熟な私たちですがこれからも、一步一步歩んで自分の道を造っていきます。

在校生のみなさん、普段はあまり触れ合う機会も少なかったですが、運動会や上級生、下級生の皆で作上げた大きな行事でした。一人一人が自分の力を出しきり、いろいろな種目で感動を呼びました。勝ち負けはつきましたが、皆で一緒にがんばったことが一番の思い出です。これからもその頑張りを忘れずに日々一生懸命生きてください。そして夢を実現するために、一生懸命頑張ってください。

今日の卒業式という新しい旅立ちの日列席して下さった方々、今まで私たちを温かく、そして厳しく支え、見守って下さった、先生方、保護者の方々、先輩、後輩のみなさん、本当にありがとうございました。

答 辞

小学部卒業生代表 6年A組 川瀬 直輝



三月に入りヒューストンも少しずつ暖かくなってきました。ヒューストンの暑い夏がまた一步一步近付いてきています。

今日は、僕達、卒業生のために、このような素晴らしい卒業式を開いて下さり、ありがとうございます。今日という日は、僕たち卒業生にとって、とても大切な日です。今日で僕たちの小学校生活は終わり、四月からは中学生になります。この補習校で過ごした想いや長さは、一人一人違うと思いますが、きっとそれぞれに大切な思い出があると思います。

僕は小学二年生の三月にヒューストンの補習校に入りました。その初日のお迎えの時に、母がクラスの子たちに「今日からよろしくね。」と声をかけたら、クラスの子が、「俺たち、もう友達だもんな。」と言ってくれたのがとても嬉しくて、今でも深く印象に残っています。思い出が沢山つまった補習校生活を振り返り、補習校をひと言で表してみると「きずな」です。補習校にはそういう思いやりのある子たちが沢山います。

僕たちは四月から中学生になりますが、中学生は大人と子供の真ん中だと思います。中学生は、ものの考え方や心は、まだ本当の大人ではありません。これから僕たちに必要なのは、責任感と自己管理だと思います。僕は中学生になったら、困っている人に自分が出来ることをやってあげたり、問題を解決してあげたりし、人から感謝される人間になりたいと思います。

ほとんどの人は、二週間後に、またこの補習校で友達に会えますが、僕はもうすぐ、日本に帰国するため、補習校で過ごすのは今日が最後です。四年間通った補習校は、僕にとって大切な存在です。先生や友達との「きずな」は、僕にとって一生の宝物になると思います。

先生は、いつも僕たちをはげまし、そして時には怒って、僕たちを成長させ、応援してくれました。僕たちはこれまで習ってきたことを忘れずに、思いやりの気持ちを持ち続け、友達を大切に、中学校生活を送っていきたく思います。



そして、どんな状況にあっても、くじけずに、前に進んでいこうと思います。

本当に今までありがとうございます。

答 辞

小学部卒業生代表 6年生B組 副田海斗



今日は、ぼくたち卒業生のために、このような心のこもった卒業式を挙げていただき心から感謝しています。また、ご多忙の中をご出席していただいたご来賓の方々、校長先生をはじめ諸先生方、並びに関係者の皆様に心から御礼申し上げます。二年前にぼくはヒューストンにやってきました。来たばかりの頃は、英語が全く分からず、現地校での生活はとても厳しく辛いものでした。一日中、お経を聞いているような感覚の中での睡眠との戦いや、自分の意志を伝えることの出来ない歯がゆさがあり、早く日本に帰りたと思ったこともありました。そんな中、週に一度、日本語で思い切り話すことが出来る補習校で、友達と過ごす時間はとても居心地が良く、心から楽しいと感じられる場所でした。

この補習校には、親の仕事の都合で全国各地から人が集まっています。また、アメリカに永住する友達、アメリカで生まれ育った友達など、それぞれ環境は違うけれど、世界には沢山の日本人が生活をしていることも知りました。沢山の出会いもありましたが、反対に、やっと仲良くなったと思ったら、日本へ帰国が決まってしまうという悲しい別れも沢山経験しました。しかし、小学校時代にここで一緒に感じたこと、経験した思い出を胸に、またどこかで必ず皆に再会できると信じています。

放課後のソフトボールでは、学年に関係なく沢山の友達が出来ました。そして、チームで団結し、ダラス補習校チームと戦ったことも、とても印象深い思い出になりました。また、お茶会やもちつき等、外国にいながらにして日本の文化を体験させていただきました。日頃から保護者の方々が、ぼくたちのため、力を貸してくださっていることに感謝致します。現地校、補習校と二つの学校に通っているぼくたちは、宿題やテストも二校分と、少し大変なこともありますが、日本では出来ない体験も出来たり、人との出会いも沢山あったりと、恵まれた環境にあると思います。

中学になると科目も増え、宿題も多くなると聞きました。これからは、今まで以上に努力しなければいけないと思います。少し不安はありますが、小学校で先生や友達から学んだ事を大切に、これからの生活をより楽しく充実したものにするために、色々な事に積極的に挑戦していきたいと思っています。

諸先生方、今日まで本当にお世話になりました。改めて御礼を申し上げます。そして、いつも僕たちを支えてくださったお父さん、お母さん、おかげで僕たちは一人一人大きく成長することが出来ました。そして、在校生の皆さん、今まで本当にありがとうございました。最後に卒業生代表としてこれを答辞と致します。